

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズクラブ

2024～2025年度 No.305

5 月報

那須クラブ会長 主題

ユースと共にミッションを



強調月間：L T
ユース

今月の聖句 ヨエル書 2：13

衣を裂くのではなく、お前たちの心を引き裂け。あなたたちの神、主に立ち帰れ。主は恵に満ち、憐れみ深く忍耐強く、慈しみに富み、くだした災いを悔いられるからだ。

5月第1例会（植樹例会）

雨のために中止

代替えプログラムの実施

那須ワイズメンズクラブ5月例会

パイプオルガンに学ぶ

日時：5月28日（水）午後3時～4時

場所：日本基督教団西那須野教会

那須塩原市太夫塚1丁目232-438

講師：木村真喜子先生

講師プロフィール

1994年 故郷本治大牧師がパイプオルガンを西那須野教会に献納するにあたり、教会よりオルガン専任者に任命される。

1996年 オルガンを育てたミハエル・クライス・オルゲルハウアーで調律を学ぶために渡独。

ドイツ滞在中にベルグレイ・カトリック教会のオルガニストを務める。

オルガンを松沼高子氏、矢吹穂子氏、若柳真実子氏に師事。

聖グレゴリオの音楽教育研究所オルガン専攻科卒業。

後進の育成にあっている。

西那須野教会員。

那須塩原伝道所、矢吹教会協力オルガニスト。

ゴスペルグループアジア学院 MINNGOS、Starryes ピアニスト。

2024～2025年度 主題

国際会長：(IP) A・シャナヴァスカーン (インド)

「より良い世界のために、共に」

アジア太平洋地域会長：(AP) ジョウン・ウォン (香港)

「大きなインパクトを起こそう」

東日本区理事：(RD) 山田 公平 (宇都宮)

「ワイズの方向性を見極める」

北東部長：大久保 知宏 (宇都宮)

「戦略2032を意識して」

クラブ役員

会長：田村 修也

副会長：村田 榮

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：武田 将吾

ブリテン：田村 修也・村田 榮

4月例会データ（出席率：66.7%）

メンバー4名、メネット3名、ゲストスピーカー2名、

ゲスト11名、（広義会員1名）

メイキャップ1名

5月 Happy Birthday

6月例会（ユースリーダーとの懇談会）

日時：6月19日（木）午後7時～

場所：日本基督教団 西那須野教会

第28回ワイズメンズクラブ国際協会東日本区大会

日時：6月7日（土）午後1時～

場所：ライトキューブ宇都宮

6月第2例会（役員会）

日時：6月19日（木）午後6時～

場所：日本基督教団 西那須野教会



巻 頭 言

武田 将吾

ご挨拶

この度、2025年度那須ワイズメンズクラブ担当主事になりました武田将吾と申します。どうぞよろしくお願いいたします。YMCAの職員となり3年目、那須YMCAユースリーダー担当も同じく3年目となります。私自身のYMCAとの出会いは2019年まで遡ります。小山市にある白鷗大学の学生だった私は、同じサークルの先輩や友人の話を聞き、YMCAに興味を持ちました。大学生活が1年経過し、新たなことに挑戦したい意欲があった大学2年生の春。「リーダー」というものをしている先輩や友人が輝いて見えたことは今でも記憶に残っています。YMCAでのリーダー生活は3年間。後半の2年間はコロナウイルスに翻弄されたリーダー生活でした。リーダーたちと一丸となって、プログラムを作っても感染状況によってプログラム中止を余儀なくされたことは一度や二度ではありませんでした。そんな世界情勢であっても、子どもたちや地域の方たちが集うプログラムやイベントの心温かさはYMCAならではの感じていました。加えて、「この場所が好きなんだ」と常々思っていました。このYMCAと出会えたことで子どもと関わる分野で働きたいと思うきっかけとなりました。大学生活が終わり、地元の宇都宮を出て塾講師として東京で働き始めました。主に幼児から小学生の子どもたちに授業をしていました。日々社会人という環境に揉まれ、悩むこともありましたが、多くのことを学び、吸収した1年でした。上げればきりがありませんが、YMCAのリーダー時代に学んだことを仕事に活かしたこともありました。社会人として働き始め、あつという間の冬。とちぎYMCAからは是非ユース担当として働かないかというお声をいただきました。仕事にも慣れ始め、楽しさがわかってきた時期だったので、悩みました。ただ、学生時代にもっとYMCAと携わって活動をしたかった思い、ゆくゆくは地元の栃木県で働きたいという思いがあったことからとちぎYMCAに入職することを決めました。今ではその決断をしたことは心から正解だったと思っています。

現在、主に担当している事業は3つあります。1つ目は健康教育事業です。平日の日中は、YMCAが学校法人として構える認定こども園さくらんぼ幼稚園で体育講師をしています。子どもたちにマット運動、跳び箱、鉄棒、縄跳びに加え、夏にはプール指導を行っています。子どもたちが小学校に上がる前の幼児期において「運動することの楽しさ」を伝えられるように指導を行っています。また、夕方は幼児体育やサッカークラスの指導にもあたっています。2つ目は野外教育事業です。YMCAが100年以上続けてきたキャンプを中心にデイプログラム、スキープログラムなどの運営、引率を行っています。野外というフィールドを「非日常体験」と謳い、YMCAらしい子どもたち同士の関わり、リーダーとの関わりを目指し、プログラム運営をしています。3つ目がユース育成事業です。YMCAに集うユースボランティアリーダーと共に、健康教育、野外教育、地域支援についてリーダーたちとリーダー会を通して考えを深めながら、ユース育成を担っています。この青年時代にYMCAに集い、子どもたちや地域について考え、共に暮らしている若者たち。未熟な側面も持ち合わせながらも熱意と若さ溢れるパワーを持ち、YMCAで活躍しています。私も若さゆえ未熟な部分があり、ときにリーダーたちから気づきを得ながら、日々の業務に取り組んでいます。私は「置かれた場所で咲きなさい」という言葉を大切にしています。様々な事業や仕事、人に携わらせていただいている今日。この場では紹介できていないものもあります。このYMCAという場所での多くの出会いを大切に、今後もYMCA職員としての道を歩んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



4月例会（CS公開講座）於：日本キリスト教団西那須野教会 2025.4.12

4月例会(CS公開講座)報告

日時：2025年4月12日(土)午後2時

場所：日本キリスト教団 西那須野教会

出席者：田村、村田、藤生、原田、の各メン、田村メネット、ゲストスピーカー2名、ゲスト13名：計20名

恒例となった公開講演会を「知っていて安心、介護保険と施設の話」をテーマに、地域包括支援センターとちのみより遠藤主任ケアマネージャーと山越



社会福祉士の2名を講師に迎え、西那須野教会の1階集会室を会場に、介護保険制度の概要や利用できる介護サービスなど

“入門編”として、とても分かりやすくお話をいただきました。

初めに、講師が勤務される「地域包括支援センター」の役割についてお話をされました。地域包括支援センターは、介護が必要になった時に相談をしたり、介護対象者の要介護認定の申請をしたり、地域のケアマネージャーの紹介をしたり、などなど“地域の相談窓口”であるとお話をされました。

次に介護保険で利用できる介護サービスの紹介を頂きました。自宅で介護をする方の「在宅サービス」として、身体介護や生活援助を行う「訪問介護」、移動入浴車で訪問し入浴介護を行う「訪問入浴介護」、日帰りで生活支援などを行う「通所介護」、数日お泊りが出来る「短期入所生活介護」、などなどの説明を頂きました。続いて施設に入所して介護を受ける「施設サービス」として、終の棲家としての「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」、数カ月入所し在宅復帰を目指してリハビリ等を行う「介護老人保健施設」などの説明を頂きました。

続いて地域住民対象の「地域密着型サービス」として、通所・訪問・短期宿泊を組み合わせた「小規模多機能型居宅介護」、終の棲家としての「地域密着型介護老人福祉施設(密着型特別養護老人ホーム)」などの説明を頂きました。また参加者にイメージしやすいよう地域にある施設を取り上げ、その施設はどんな介護サービスを行い、利用条件や定員などについて紹介を頂きました。

そして、いつまでも元気に過ごすための「介護予防」の考え方も変わってきたとのことで、これからの介護予防である「フレイル予防」の説明も頂きました。今までは「高齢になると『筋力が衰える』から引きこもったりして『社会性の低下』を招く」という考えから運動機能向上を主としていましたが、これからは「社会とのつながりである『社会性が低

下』すると、生活習慣そして心や体の変化をもたらす身体具合が悪くなり『運動機能が低下』する」という考えに変わっており、そのため“いかに社会参加をするか、の地域づくりが大切である”とお話されました。

参加した皆さんは介護サービスを必要としないくらい元気な方ばかりでしたが、介護保険の仕組みや介護サービスの内容を知っておけばいざという時に安心です。そしていつか介護サービスを利用する際にはその方に最適なサービスを選択して、人生の最後まで生き生きと楽しい日々を過ごすことが出来ればと願っています。

第2例会(役員会)報告

日時：4月24日(木)午後4時30分から

5月22日(木)午後4時30分から

場所：田村会長宅

出席者：田村、村田、武田各メン、田村、村田メネット

1. 次年度役員の体制について

会長は村田、副会長は田村、書記は藤生、会計は鈴木、補佐を村田で行う。

2. 5月例会について

5月12日(土)午前10時より、植樹例会を行う。雨天のために中止となった。

代替えの5月例会を5月28日(水)午後3時から、西那須野教会で行う。パイプオルガンに学ぶとし、木村真喜子先生による、お話と演奏を楽しむ会とする。ポスターを3枚作製。謝礼は10,000円とする。

3. 第28回東日本区大会参加について

田村夫妻、原田メン、村田夫妻の5名で参加する。那須クラブとして、シイタケ昆布の販売を行う。

4. 6月例会(ユースリーダーとの懇談会・新年度に向けて)について

6月19日(木)午後7時から西那須野教会をお借りして行う。食事の準備を西那須野教会の古川姉と高久姉にお願いする。村田がお米とじゃがいもと玉ねぎは提供する。出席者の確認は、6月15日。

5. 7月例会について

7月19日(土)のお昼に行く。場所は、岡重。会場の予約は、田村メネットの依頼。会費は3,000円。リーダーにも参加を呼び掛ける。入会式を行う。張メンは、広義会員として申請を行う。

6. 7月役員会について

6月19日(木)午後6時より、西那須野教会にて開催する。次年度計画について

7. シイタケ昆布の販売について

東日本区大会と6月29日（日）に行われるとちぎYMCAチャリティーランで販売。7月に入ると次の注文を行う。

開拓と信仰の姿「開拓と西那須野教会」-(7)

会長 田村 修也

明治19年、32歳の時、本家田島善平宅に於いて小森谷常吉伝道士たちによって、島村にキリスト教伝道が始められ、田島善平他3名が洗礼を受けました。明治20年、33歳で、弥三郎はコーレル宣教師から洗礼を受けてキリスト教に入り、教会の会計役員として島村教会の発展に努めると共に、次男真澄や家族もまた洗礼を受けて、一家を挙げてキリスト教徒となりました。長男の董は、同じ年に東京神田教会に於いてソーパル宣教師から洗礼を受けております。

次に、島村教会信徒の那須野が原移住に入らせて頂きます。2代田嶋弥三郎ですが、明治17年8月、初代弥三郎が永眠して、長男啓太郎は弥三郎を襲名することになりました。弥三郎一家が那須野が原に移住するまでに、なお数年を要しました。移住の動機につきまして、弥三郎の長男である田嶋董さんは、その著書「西那須野教会史」の中で、こう記しています。その概要を紹介すると、明治15年、啓太郎29歳のとき、同業者団体の代表として、同地特産の蚕種販売の任を負って、イタリアに渡り、滞在2年、その間、イタリア、オーストリア、スイスの農業の状態を視察研究し帰国後は、その得た知識を自家農業に応用しようと考えた。彼は欧州滞在中に学び得た知識を実地に应用するためには、国内においても、北海道の如き、土地の広い新開拓地を選ぶことがよいと考えて、北海道、静岡県、千葉県などを考え、各地の開拓地を視察したが、たまたま、那須野が原の開拓の業が起り、親戚に当る金井之恭が那須開墾社の株主となって、大面積の土地を所有しているのを知り、その一部の譲渡を受けることになった。更に彼を開拓事業に転向させたのは、明治維新によって、わが封建の制度は崩壊し、資本主義経済の発達に伴い、中産階級が次第に没落しつつある情勢となったので、中産階級の一人として、その対策を講ずる必要があったのであろう。かくして、彼が開拓事業につき、計画しつつあった折から、明治19年、当時東京青山英和学校校長であった米国宣教師マクレイによって、島村伝道が開始され、多数の入信者が起り、教会が出来、彼も又導かれて入信したが、開拓事業についての、彼の意欲は毫も衰えなかった、とあります。

当時の社会情勢を要約すれば、明治維新によって

わが国の封建制度が崩壊し、多数の失業武士が生じると共に、一方では資本主義経済の発達に伴って、中産階級が没落しつつあったため、政府はさかんに開拓事業を奨励して、いわゆる殖産興業によってこれを打開しようとしていたわけであります。弥三郎にとっては、正にチャンス到来といつてよかったです。田嶋家の記録によると、「那須野が原については、北海道視察の途中、列車の車窓から望み見て、こんな近い所に、こんな広い所があるなら、わざわざ北海道まで行くことはない」と決意したと聞いている。しかし彼は、かなり晩年まで、もっと広大なブラジルあたりの開拓を夢見ていたふしがある。」とのことであります。（以下次号へ続く）

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光夫

「ルーマニアの捨てられた子ども達」という研究報告があります。これはチャールズ・ネルソン博士等が行ったもので、幼児教育や発達支援の愛着形成についての研修会では時々取り上げられる話です。

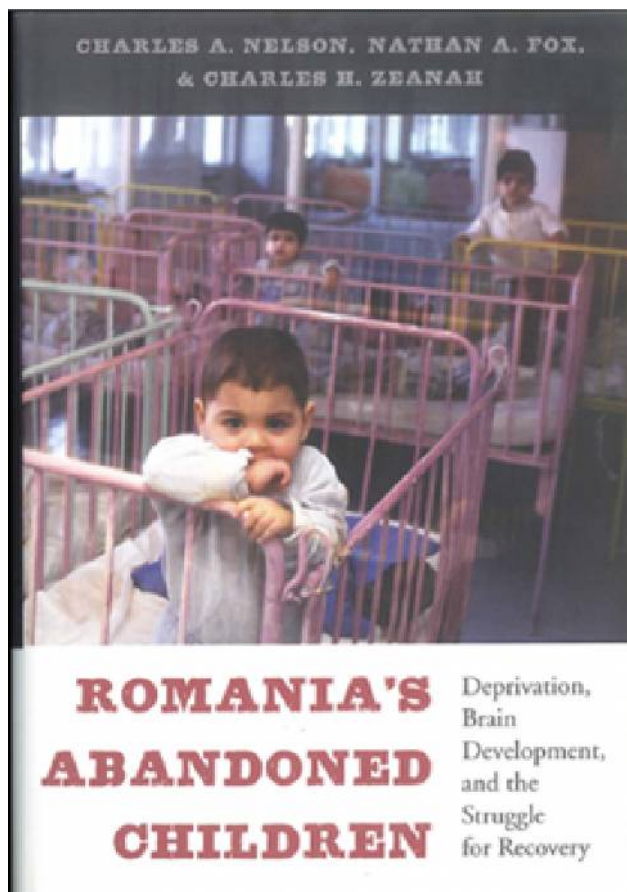
1989年ルーマニアの独裁的なチャウセスク大統領の政権が崩壊したとき、孤児は10万人位いました。当時の孤児院(写真参照)では、乳幼児は時間ごとに食事と排泄の始末を受けていました。言い換えますと、施設では、お腹が空いて泣いても、排泄で気持ち悪くなって泣いても、時間までだれも来てくれません。

この研究はこのような中で育った子どもを、施設に残ったグループと里親が養育したグループに分けて縦断的に経過を分析した倫理的に問題となった研究でもあります。当時の施設で育った子ども達は、愛着形成に困難があり、社会的スキルの欠如、キレやすい傾向、認知能力・言語発達遅滞の傾向があります。また、よい養育環境の里親に移された子ども達は、健全な愛着形成、情緒的・社会的発達が促進される傾向がありました。つまり、愛着形成がとても重要です。

また、特に2歳半以前により養育環境に移された子ども達は、愛着形成、認知能力、言語発達がより効果的でした。

これらから分かったことは、人生最初の数年間の適切な養育環境が愛着形成に決定的に重要だということです。言い換えますと、乳幼児期の子育てと子育て支援環境が極めて大切です。

こどもたちとの今を大切に過ごしましょう。



聖園那須老人ホームたより

社会福祉法人 イースタービレッジ
那須聖園老人ホーム

施設長 薄井 高宏

梅雨もまじかで日に日に着る物に悩む今日この頃、皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

いよいよ昨年度の決算が押し迫り、理事会や評議員会の準備で忙しい日々を過ごしておりますが、その中でも米の高騰には、目を見張るものがあります。米は、施設でもなくてはならないもので、大量に毎月購入しています。米は、パンと比べても消化がゆっくりでエネルギーに変換されるのに一工程多い為、腹持ちが良く、血糖値の上昇がゆっくりです。また、加工も容易で施設でもお粥やペーストにするのにも作りやすく、ほのかな甘みと飽きのこない味でとても優秀な穀物です。しかし、作付けの工程は、多く複雑で、つくるのに大変な作物でもあります。今回の高騰で目立つ事となりましたが、年々生産者は、減っており、作付け面積は、減る一方です。日本を代表する米の生産も近い将来輸入に頼る時代が来てしまうのではないのでしょうか。また、輸入した米で日本人は満足できるのでしょうか。国の主食を外国に握られて日本は大丈夫でしょうか。農家の三男坊

の私としては心配が募るばかりです。

新しい施設に建替わるにあたり

聖園那須老人ホームでは、新しく個人契約入所を開始したいと思います。この制度は、生活にお困りの方々に住宅を供給する観点からのサービスで、措置入所で必要な条件や入所判定委員会の意見、市町の決定がなくても施設と入所を希望する方との契約で入所できるサービスです。契約にもいくつかの条件や料金の違い、サービスにも違いがありますので、ご興味のある方は、下記連絡先までお問い合わせください。

また、新築にあたり、ご寄付も募っておりますので併せてご連絡ください。

タオル寄付のお願い

聖園那須老人ホームでは、入所者の方々が生活する中で、様々な場面で使い切りの布（タオル）を使用しています。つきましては、皆様には、タオルの寄付をこれまで同様お願いできれば幸いです。

- ・新品、未使用、使用後は問いません。
- ・ハンドタオル、フェイスタオル、バスタオル、タオルケット等大きさも問いません。
- ・御年賀やご挨拶で頂いた物、未開封、開封後等問いません。
- ・切断や洗濯、消毒はこちらで行います。

・その他お問合せは、 電話番号 0287-72-0809 までお願い致します。

YMCAだより

【とちぎYMCA新リーダー歓迎会を実施しました】

4月26日（土）に鬼怒川緑地公園で「とちぎYMCA新リーダー歓迎会」を行いました！

今回の新歓は実行委員のリーダーが中心となってプログラムを企画しました。今回は宇都宮、那須、つぼみ（高校生）の新リーダー候補の28名がYMCAに足を運んでくれました。総勢約50名の学生が集まるイベントとなりました！鬼怒川緑地公園の広場でレクリエーションを行い、グループでお昼を食べたり、カートンドックを作ったりしました。実行委員にとっても楽しませるプログラムを立案するよい機会になりました。高校1年生から大学4年生までたくさんの世代での交流を図れた1日となりました。多くの新リーダーと活動できる日が楽しみです。



【とちぎYMCA・那須YMCAの5月の予定】

- ・ 5/4（日）～5/6（火）2025年度北関東赤城プレキャンプ（リーダートレーニングキャンプ）
@ぐんまYMCA赤城キャンプ場
- ・ 5/17（土）とちぎY野外クラブ（小学生）5月活動 @茂木町町田本郷地区棚田
- ・ 5/25（日）Yキッズ5月活動 @益子町長谷川陶苑

ユースリーダーのつぶやき

- ①本名（リーダー名）②学校名 学部なども
- ③出身地④YMCAに入ったきっかけ⑤思い出に残った活動とその理由は？⑥今後の進路は？
- ⑦YMCAに一言



- ① 益子 藍衣（うおん）
- ② 国際医療福祉大学 保健医療学部 看護学科
- ③ 栃木県那須塩原市
- ④ 子どもたちの成長の瞬間に立ち会える貴重な経験を通して、自分自身も多くのことを学びたいと考えています。

⑤ 山登りキャンプでの体験が特に印象に残っています。非日常的な環境の中で、子どもたちが互いを思いやり、協力し合う姿を見ることができ、とても新鮮で感動的な経験でした。

⑥ 患者さんにとって最も身近な医療従事者として、常に患者さんの立場に立ったケアを提供できるよう努力していきます。

⑦ 多くの学びを吸収しながら、周りの人を楽しませ、引っ張っていけるようなリーダーになります！